



アラビカコーヒーとロブスタコーヒーの輸出差が広がっている。

2018年4月、ICO日次複合指標価格は110.49米セント～114.73米セントの範囲内で動き、月間平均値は先月比0.4%下げ112.56米セント/LB となった。アラビカ3グループの指標価格は全て下落したが、先月比最も大きく下げたのはブラジルナチュラルで、0.9%下落し118.76米セント/LB となった。一方、ロブスタコーヒー指標価格の月間平均値は0.1%上昇し88.31米セント/LB だった。2018年3月の世界コーヒー輸出量はアラビカの輸出量、特にコロンビアマイルドの輸出量が減ったことで、2017年3月の10.91百万袋から10.81百万袋に減少した。2017/18年度最初の6か月間の累計輸出量は前年同期比0.6%減り59.96百万袋となった。

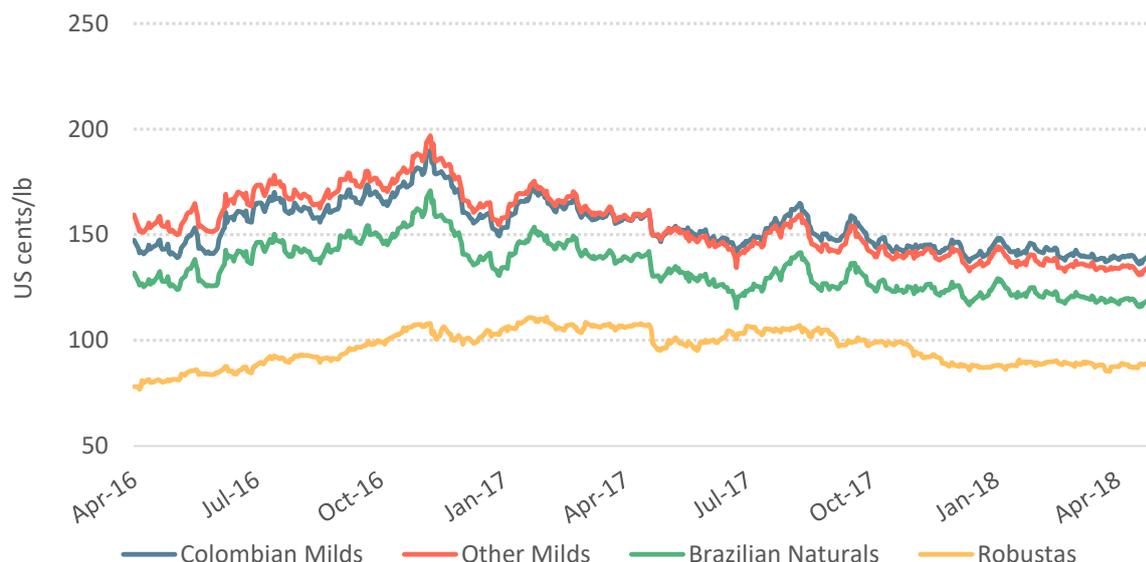
図 1: ICO 日次複合指標価格



© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

2018年4月のICO複合指標価格は3か月連続しての下げとなり、月間平均値は前月比0.4%下落、112.56米セント/LBとなった。4月の日次指標価格は最後の2日間を除き全月110.49米セント～113.71米セントと114セント以下の範囲内での動きだった。しかし、4月27日に114.66米セント/LBを付け、最終日には更に114.73/米セントとなった。

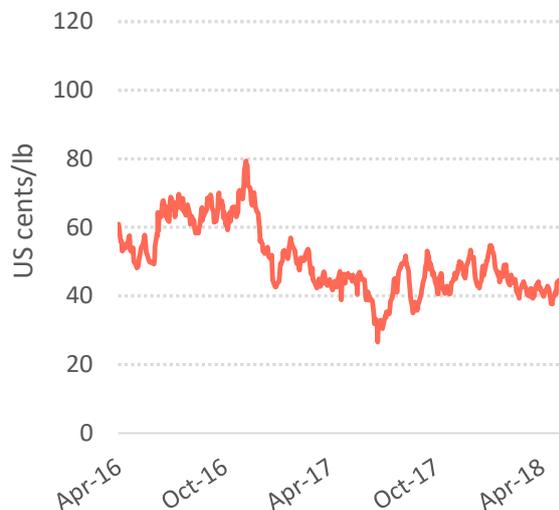
図 2: ICO 日次グループ指標価格



© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

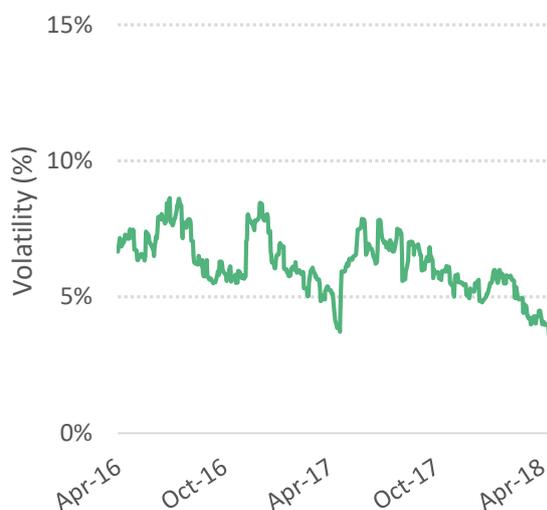
4月、アラビカ3グループ全ての指標価格は下落した。中でもブラジルナチュラルグループの下げが最大で月間平均値は0.9%ダウンし118.76米セント/LBとなった、一方アザーマイルドグループの指標価格は0.5%下げ134.34米セント/LBだった。コロンビアマイルドグループは、コロンビアの2017/18年度生産高が減産見通しになっている為下げ幅は限られ、僅かに△0.1%で139.29米セント/LBだった。結果的に、コロンビアマイルドとアザーマイルドの価格差 (differential)は12%広がり月間平均価格で4.95米セントとなった。ロブスタ指標価格の月間平均値は、ブラジルロブスタニュークropp到着前であり目先の需給がタイトな状況を反映し、0.1%ではあるが上昇し88.31米セントとなった。ニューヨークとロンドン先物市場で測られる4月のアービトラージ平均値は2.4%縮小し40.81米セント/LBとなった。更にICO複合指標価格の価格変動率 (Volatility) は0.3%縮小し4.0%だった。

図 3: ニューヨークとロンドン先物市場間のアービトラージ



© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

図 4: ICO複合指標価格の30日移動平均価格変動率



© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

2017/18年度世界コーヒー生産量は前年度比1.2%増の推定159.66百万袋である。南米地域の生産量は6.1%減の70.59百万袋を予想している。しかし、残りの地域の生産量はこの減産量を上回ることになるだろう。アフリカの生産量は3.2%増の17.66百万袋、アジア・オセアニア地域は10%増の49.49百万袋、メキシコ・中米地域は7.1%増の21.92百万袋の見通しである。

2018年3月のコーヒー総輸出量は前年同月に比し0.9%減の10.81百万袋である。これは主にアラビカ特にコロンビアマイルド輸出量減少の影響である。2017年10月から2018年3月の輸出量は2月を除く全ての月が前年同月に比べ減少している。特に3月の減少が顕著であり、結果として2017/18年度最初の6か月の累計総輸出量は0.6%減の59.96百万袋となった。

2018年3月のコロンビアマイルドの輸出量は前年同月比11.5%減の1.16百万袋であり、2017/18年度最初の6か月の累計輸出量は前年同期比10.1%減の7.34百万袋となった。2018年3月のコロンビアの輸出量は前年同月比10.7%減の1.04百万袋、2017/18年度最初の6か月の累計輸出量は10.6%少ない6.70百万袋である。これは2017/18年度のコロンビアのコーヒー生産量が降雨量過多の為14百万袋に減産になったことが主因である。コロンビアコーヒー生産者連合（FNC）によると2017/18年度前期の生産量は7.32百万袋とのことである。この数字は前年度に比べ8.1%少ない数字だが、2015/16年度とほぼ同じ水準で、この年度の通年生産量は14.01百万袋である。

2018年3月のアザーマイルドの輸出量も前年に比べ減少し前年同月比1.3%少ない2.49百万袋だった。しかし、2017/18年度最初の6か月の輸出量を見るとこのグループの輸出量は前年同期比5.8%増の12.49百万袋であり、他の2アラビカグループに比べるとまだましな状況だと言える。2018年3月と2017/18年度最初の6か月のホンジュラスの輸出量は夫々、7%増の0.86百万袋及び11.8%増の3.35百万袋である。ホンジュラスの2017/18年度の前年度比12%増の8.35百万袋の見通しで、同国の国内消費量は限られているので輸出可能数量が増加している。

2018年3月のブラジルナチュラルの輸出量は前年同月比6.8%減の2.68百万袋であり、2017年10月から2018年3月の累計輸出量は前年同期比2.2%減の18.14百万袋である。2018年3月のエチオピアの輸出量は前年同月比4.6%少ない0.26百万袋である。しかし同国の2017/18年度最初の6か月の輸出量は前年同期比27.6%多い1.55百万袋となっている。2017/18年度のエチオピアの生産量は前年度比4.8%多い7.65百万袋の見通しである。

2018年3月のブラジルの輸出量は前年同月に比べ10.5%少ない2.52百万袋である。また2017年10月から2018年3月の輸出量は前年度同期に比べ7.7%少ない16.57百万袋である。これは2017/18年度の同国生産量が推定51百万袋と減産になっていることを反映したものである。

2018年3月のロブスタの輸出量は前年同月比6.7%少ない4.48百万袋である。2017年10月から2018年3月の輸出量は、最初の2ヶ月間の輸出量が少なかった為、前年同期比僅かに0.9%増の21.99百万袋となっている。2018年3月のベトナムの輸出量は暫定値ではあるが推定3.3百万袋

であり、前年同月比31.9%増となっている、また2017/18年度の最初の6か月間の累計輸出量は15.5%増の14.46百万袋である。2018年3月のウガンダの輸出量は18.7%増の0.33百万袋、2017/18年度最初の6か月の輸出量は前年同期比3.7%増の2.34百万袋となっている。

最後に今月のコーヒーマーケットレポートではアラビカコーヒー生豆の生産国に於けるFOB価格と輸入国で収集しているグループ指標価格の関連性を調査する為にこれらのデータの構成要素を分解・分析した。この分析の為に、輸出コーヒーの船積みロット毎の単位価格（unit price）がトレースできるブラジル、コロンビア、ホンジュラス、ベトナムの原産地証明書に書かれた情報を利用した。

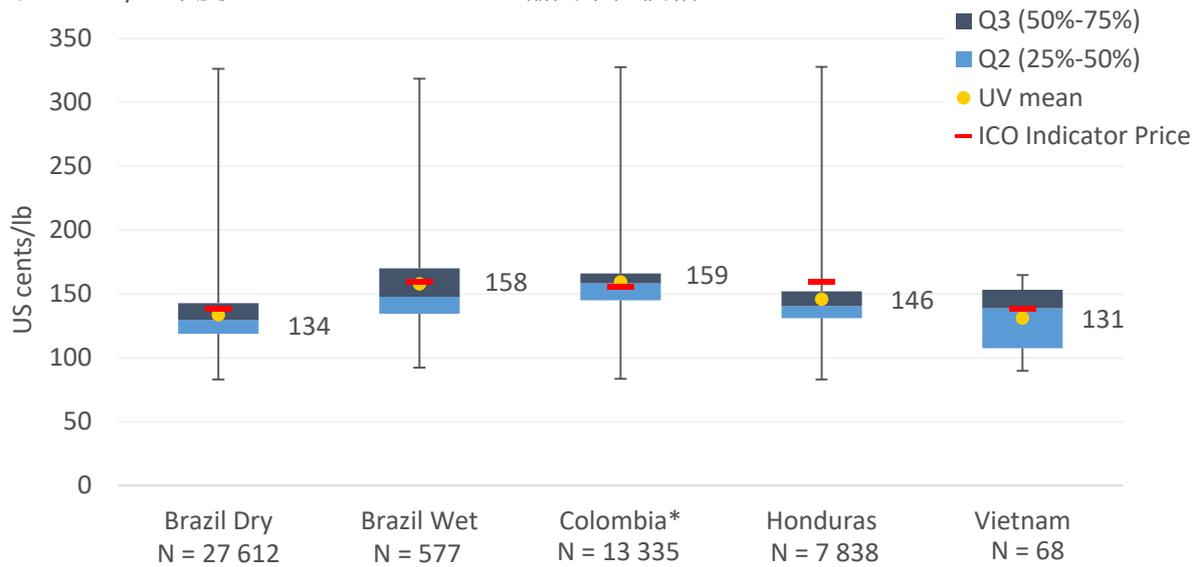
図5は2016/17年度におけるこれらの4か国から輸出されたアラビカコーヒー生豆の単位価格を示した棒グラフである。棒グラフは船積みされた個別コーヒーロットの最高及び最低単位価格を示しており、船積みロット数で均等に4分割された区分毎の価格分布状況を示している。即ち原産地証明に基づき船積みロットを輸出価格に従い棒状に並べそれをロット数で25%ずつに4分割したものである。最も上部及び最下部には最高及び最低価格帯の区分にあるロットが線で示されており、第2番目及び第3番目の区分は淡い青及び濃い青の四角形で示され中間価格点の周辺にある。黄色の点で示されているのが輸出単位価格の中央値であり、赤線で示されているICOアラビカ3グループ（コロンビアマイルド、アザーマイルド、ブラジルナチュラル）の年間平均価格と比較することが出来る。

このグラフを見ると2つの主なパターンが理解できる。即ち、ICOグループ指標価格の年間平均値はブラジル非水洗式コーヒーと水洗式コーヒーの輸出価格やコロンビアとベトナムアラビカコーヒー輸出価格の中央値とほぼ近い水準にある。しかしホンジュラスの輸出価格は、彼らの属するグループであるアザーマイルドグループ指標価格の年間平均値よりはかなり低い。即ち、コスタリカ、グアテマラ、ホンジュラス、メキシコ、エルサルバドルが属するアザーマイルドグループの中では、ホンジュラスのアラビカコーヒーは品質もしくは買い付けの容易さなどが反映されて他のオリジンより安く売り買いされているということである。

次に解ることは、かっこ()で示された中央値に近い二つの区分のアラビカコーヒー輸出価格は国によって大きく異なるということである。原産地証明書に記録された最高価格と最低価格の幅は、ブラジルの非水洗アラビカが最も小さくて226米セント/LBであり、ホンジュラスの水洗式アラビカコーヒーが最も大きく245米セント/LBである。即ち、ホンジュラスのアラビカコーヒーは平均的に安く売られているが、四か国の中では輸出価格の差が最も大きいということである。ベトナムアラビカコーヒーの輸出価格は非常に小さく僅か75米セント/LBである。

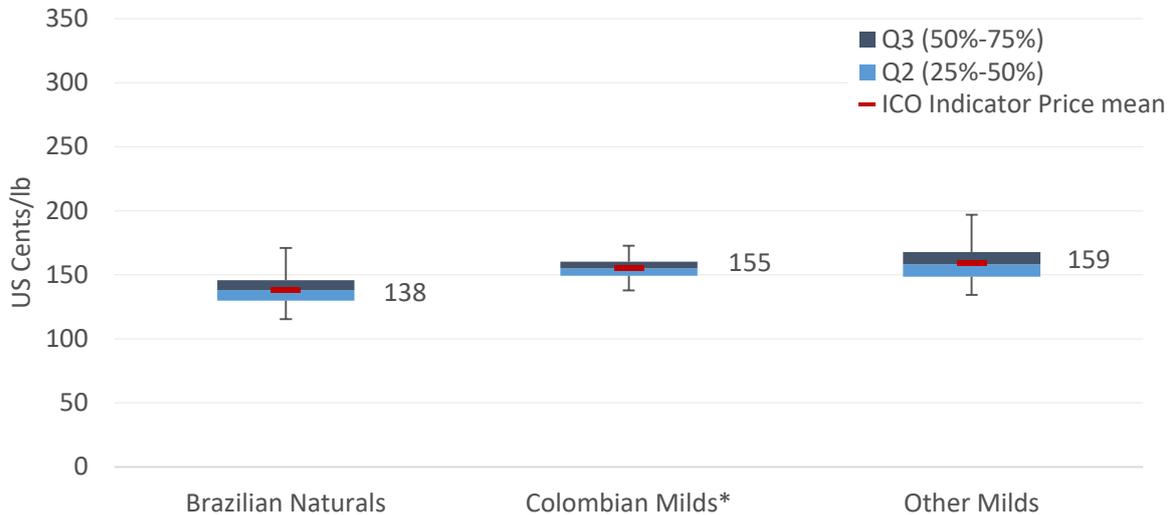
価格差は様々な要因の結果生じるものであり、例えばアラビカコーヒー国際価格の年間を通じての乱高下、先物販売、品質差、運賃（これは配送ロットでも異なる）等がある。図6は2016/17年度のICO日次グループ指標価格の値動きを示したものである。日次価格の最高、最低価格の価格差は年間を通じ相対的に小さい。コロンビアマイルドの価格差は35米セント/LB、アザーマイルドは63米セント/LB、ブラジルナチュラルは56米セント/LBである。即ちグループ指標価格は輸出価格を構成する多くの要素の中の一部条件のみが反映されたものだけということである。例えば反映されない条件の中には船積みされたコーヒーの品質や小さなことだが船積みロットで左右される運賃などがある。

図 5: 2016/17年度アラビカコーヒー生豆輸出単位価格



* Data for Colombia covers the period January to September 2017
 Comparison of unit values of shipments with ICO Group indicator: Brazil Dry and Vietnam with Brazilian Naturals; Brazil Wet and Honduras with Other Milds; Colombia with Colombian Milds
 N= Number

図 6: 2016/17年度ICO日次グループ指標価格動向



© 2017 International Coffee Organization (www.ico.org)

原産地証明のデータによるとコーヒー生産者が例えばコーヒーの差別化、高品質化、認証や契約条件によってプレミアムを得ることが可能なことを証明している。即ち、2016/17年度にICOグループ指標価格の最高値を上回って輸出されたコーヒーはプレミアム化に成功したという事である。例えば、船積みされたブラジル水洗アラビカコーヒーの17%はICOアザーマイルドグループ指標価格の最高値を上回っている。同様に船積みされたコロンビアコーヒーの18%はコロンビアマイルドアラビカグループ指標価格の最高値を上回っている。しかしこの比率はブラジル非水洗アラビカコーヒーとホンジュラス水洗アラビカコーヒーの船積みロットに比べると5%低い数字である。

表 1: ICO 指標価格と先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
Apr-17	130.39	154.97	155.40	136.09	103.58	139.25	95.34
May-17	125.40	151.41	150.00	131.21	98.36	135.45	90.35
Jun-17	122.39	146.12	143.22	123.71	101.95	128.18	93.11
Jul-17	127.26	152.51	149.66	129.19	104.94	135.71	96.03
Aug-17	128.24	155.15	149.88	131.93	104.52	138.11	94.89
Sep-17	124.46	151.47	146.56	129.67	99.18	135.95	89.69
Oct-17	120.01	144.26	140.71	124.55	98.39	131.00	88.38
Nov-17	117.26	144.09	140.90	124.28	91.33	129.96	81.46
Dec-17	114.00	141.62	137.42	121.47	87.59	125.25	78.30
Jan-18	115.60	143.77	138.81	123.67	88.65	127.65	78.90
Feb-18	114.19	141.50	136.28	120.83	89.24	123.82	80.38
Mar-18	112.99	139.45	135.03	119.80	88.18	121.66	79.86
Apr-18	112.56	139.29	134.34	118.76	88.31	120.17	79.36
% change between Apr-18 and Mar-18							
	-0.4%	-0.1%	-0.5%	-0.9%	0.1%	-1.2%	-0.6%
Volatility (%)							
Mar-18	4.3%	4.6%	5.1%	5.5%	4.5%	5.9%	5.1%
Apr-18	4.0%	4.2%	4.0%	5.0%	5.1%	5.2%	5.6%
Variation between Apr-18 and Mar-18							
	-0.3	-0.4	-1.1	-0.5	0.6	-0.7	0.5

* Average price for 2nd and 3rd positions

表 2: 価格差 (US cents/lb)

	Colombian Milds Other Milds	Colombian Milds Brazilian Naturals	Colombian Milds Robustas	Other Milds Brazilian Naturals	Other Milds Robustas	Brazilian Naturals Robustas	New York* London*
Apr-17	-0.43	18.88	51.39	19.31	51.82	32.51	43.92
May-17	1.41	20.20	53.05	18.79	51.64	32.85	45.09
Jun-17	2.90	22.41	44.17	19.51	41.27	21.76	35.07
Jul-17	2.85	23.32	47.57	20.47	44.72	24.25	39.68
Aug-17	5.27	23.22	50.63	17.95	45.36	27.41	43.22
Sep-17	4.91	21.80	52.29	16.89	47.38	30.49	46.26
Oct-17	3.55	19.71	45.87	16.16	42.32	26.16	42.62
Nov-17	3.19	19.81	52.76	16.62	49.57	32.95	48.50
Dec-17	4.20	20.15	54.03	15.95	49.83	33.88	46.95
Jan-18	4.96	20.10	55.12	15.14	50.16	35.02	48.75
Feb-18	5.22	20.67	52.26	15.45	47.04	31.59	43.44
Mar-18	4.42	19.65	51.27	15.23	46.85	31.62	41.80
Apr-18	4.95	20.53	50.98	15.58	46.03	30.45	40.81
% change between Apr-18 and Mar-18							
	12.0%	4.5%	-0.6%	2.3%	-1.8%	-3.7%	-2.4%

* Average price for 2nd and 3rd positions

表 3: 世界コーヒー需給バランス

Crop year commencing	2014	2015	2016	2017	% change 2016-17
PRODUCTION	149 077	152 107	157 694	159 663	1.2%
Arabica	86 281	88 432	102 176	97 426	-4.6%
Robusta	62 796	63 675	55 518	62 237	12.1%
Africa	15 964	16 338	17 120	17 663	3.2%
Asia & Oceania	45 974	49 566	44 968	49 485	10.0%
Mexico & Central America	17 188	17 237	20 467	21 924	7.1%
South America	69 951	68 965	75 139	70 591	-6.1%
CONSUMPTION	151 828	155 712	157 858	159 917	1.3%
Exporting countries	47 197	48 252	48 516	49 434	1.9%
Importing countries (Coffee Years)	104 631	107 461	109 342	110 483	1.0%
Africa	10 713	10 926	11 119	11 238	1.1%
Asia & Oceania	32 641	33 628	34 680	35 422	2.1%
Mexico & Central America	5 237	5 302	5 239	5 326	1.7%
Europe	50 914	51 674	51 860	52 101	0.5%
North America	27 363	28 934	29 564	29 851	1.0%
South America	24 960	25 248	25 398	25 978	2.3%
BALANCE	-2 751	-3 605	-164	-254	

In thousand 60-kg bags

表 4: 輸出国の総輸出量

	March 2017	March 2018	% change	October-March		
				2016	2017	% change
TOTAL	10 908	10 811	-0.9%	60 320	59 963	-0.6%
Arabicas	6 711	6 334	-5.6%	38 521	37 976	-1.4%
<i>Colombian Milds</i>	1 310	1 160	-11.5%	8 168	7 341	-10.1%
<i>Other Milds</i>	2 526	2 494	-1.3%	11 810	12 493	5.8%
<i>Brazilian Naturals</i>	2 876	2 681	-6.8%	18 543	18 143	-2.2%
Robustas	4 196	4 477	6.7%	21 798	21 987	0.9%

In thousand 60-kg bags

Monthly trade statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 5: ニューヨークとロンドン先物市場の認証在庫量

	Apr-17	May-17	Jun-17	Jul-17	Aug-17	Sep-17	Oct-17	Nov-17	Dec-17	Jan-18	Feb-18	Mar-18	Apr-18
New York	1.58	1.65	1.70	1.73	1.86	2.03	2.15	2.17	2.23	2.24	2.14	2.21	2.26
London	2.87	2.87	2.81	2.63	2.52	2.52	2.19	2.20	2.09	1.79	1.52	1.37	1.32

In million 60-kg bags

ートピックス（１）ー

第121回 ICO 理事会は、4月9日～13日メキシコシティーで開催されましたが、3月29日付 I C O 事務局長信で米国が ICO から脱退するとの連絡が入った直後でしたので参加者全員が I C O の今後がどうなるのか不安を抱えながらの会議となりました。下記の通り概要をお知らせします。

開会式は、ヒルトンホテル大会議場で300名近い関係者が出席(30か国200名程のICO加盟国代表団を含む)して行われた。メキシコ農畜水産農村開発食料省(SAGARPA) 副大臣 Jorge Armando Narvaez Narvaez 氏を始めとするメキシコ政府及びコーヒー関係者、ICO 事務局長 Sette 氏、理事会議長 Aly Toure 氏などの歓迎・開会スピーチが長々と続いたが、米国脱退については一切触れられず不気味な静けさを感じさせる開会式だった。

その後ワークショップや各委員会がスケジュール通り淡々と行われたが、裏では残留消費国や I C O 事務局、生産国代表などが様々な組み合わせで集まり米国分担金の穴をどう埋めるかということについて話し合われた。

（１）米国 I C O 脱退問題

2007年 ICO 協定では、全体約300万ポンドの ICO 予算を消費国と生産国グループで折半し、夫々を消費国は輸入量、生産国は輸出量の割合で分担する（議決権を持つ）というルールがある為、全体の11.45%を負担する米国が脱退するということは、残り6消費加盟国がその分を負担するということになる。しかし、同協定第12条には1メンバーの議決権を突出させない為に、夫々のグループで特定の1メンバーに三分の二以上の議決権（全体では三分の一となる）は与えない（分担金の上限とする）との規定があるため、現在既に消費国グループ内で62%（全体では31%）を持つEUの負担は僅かに増えるだけであり、日本、ノルウェー、ロシア、スイス、チュニジアの5か国が倍以上になる分担金を負担することができるかという問題に凝縮されることになる。今回欠席したノルウェー、チュニジアの意見は聞くすべもなかったが、特に日本、ロシア、スイス及びEUの4消費加盟メンバーとICO事務局は何回も非公式会議を重ねた。更に生産国を加えて2回開かれた財務運営委員会でも全てこの問題について議論されたが結論は出なかった。

側聞するところではスイスが分担金の増加を受け入れるという明快な意思表示をした以外、EU、日本、ロシアの消費加盟国は夫々の理由で最終意思表示を見送ったようである。特に僅かの増加にしかないEUも現協定にはいくつか問題点があるとし、それを改善すれば増加を受け入れると主張したようで、これには特にコロンビアが、論点が違うと激しくかみついたとのことだった。

最終的には、5月31日に再度財務運営委員会を開催することが決められた他、ICO加盟政府及び民間団体含む全員が米国の残留を望むということを決議し、ICO議長、事務局長などを中心とする米国説得団を結成し5月中旬頃にワシントンに派遣し米国政府、国会議

員にロビー活動を行うことも併せ議決された。

(2) 消費振興・市場開拓委員会 (PM)

日本の高柳氏が議長、ロンドン駐在ネパール大使の Durga Bajadur 氏が副議長に選出され、PROMECAFE の Rene Leon-Gomez 氏が中米諸国の国内消費の現状を紹介した。横山会長が『全日本コーヒー協会 (AJCA) の広報活動とコーヒー消費振興活動及び日本コーヒー市場の現状と将来』のテーマで『2017年10月1日国際コーヒーの日』TV動画も含め約20分のプレゼンを行い大好評を得た。FNCのベレス総裁が日本では缶コーヒー等欧米にはない独自のコーヒー製品が開拓され種類が豊富で素晴らしいと言え、気難しいEU代表も欧州にも高齢化社会が迫っており日本のコーヒーと健康の取り組みは参考になったと述べる等20か国程の参加国代表から次々と手が上がり素晴らしかったとのコメントがあった。また2018年10月1日国際コーヒーの日のテーマは『Women in Coffee』に決まった。

(3) 民間部門諮問委員会 (PSCB)

ICT (India Coffee Trustee) 社長 Anil Kumar 氏が議長に NCA の Murry 氏が副議長に選ばれた。世界女性コーヒー同盟 (International Women's Coffee Alliance) 代表の Ms. Kellem Emmanuel 氏が生産国を中心にした22か国に支部を持つ同連盟の活動内容について説明した後、昨年ICOとMoUを結んだAFCA (Africa Fine Coffee Association) 会長 Ishak K.Lukenge 氏が同協会の活動内容を紹介した。中国コーヒー協会事務局長 Lucy Fu 女史が中国コーヒー取引の実態について説明したが、EU及びICO事務局長から加盟見通しについて聞かれ窮する場面も見られた。

(4) プロジェクト委員会 (PJ)

ホンジュラスの Ivan Romero Martinez ロンドン大使が議長に選ばれ、ドイツ経済省の Ina Grohmann 女史が副議長に選ばれた。事務局からICOが主導するプロジェクトの現状報告がなされると共に中米コーヒーの現状の説明があった。Andrea Illy 氏が気候変動の影響で2050年までにはアラビカコーヒー生産適地が半減するとの危機感からGAP (Global Arabica Plan) を提唱してきたが、2018年10月スイスの会議で最終結論を出すことが決められた。ICOがGCP(Global Coffee Platform)とのMoUに基づき、ISEAL(国際社会環境表示連合)から提供される550千スイスフラン(60百万円)の資金で他農作物と共同で持続可能な生産を実現する為3年間調査(Delta Project)を行うことが決められた。

(5) 統計委員会 (SC)

コロンビアのFNCニューヨーク代表 Juan Esteban 氏が議長に、ドイツの Ina Grohmann 女史が副議長に選ばれた。PROMECAFE がコーヒー生産コストについて紹介し、現在の国

際価格は生産コストを下回っていると話した。大学・研究機関との関係を密にするために優秀なコーヒー関係論文を募集し懸賞（2000 ポンド）を出すことが決められた。コロンビアがコーヒー製品を分類したいので原産地証明の商品番号桁数を増やすよう提案し承認された。

（6）コロンビアコーヒー生産者フォーラム関連

2017年7月にコロンビアで開かれた第一回コーヒー生産者フォーラムのモニタリング委員会のメンバーであるコスタリカとグアテマラが共同で『小コーヒー農家の収入を増やす為の研究』をコロンビア大学 Jeffery Sachs 教授のグループに依頼したが、19万米ドルの費用がかかるので彼らが17万ドルは負担するが残りの2万ドルをICOが負担してほしいと要求し、承認された。

（7）コーヒーセクターフォーラム（C S C S F）コアグループ（CG）

議長のロシアが欠席だった為副議長のコートジボアール Aly Toure 氏が議長を務めた。今年9月にロンドンで開かれる第8回コーヒーセクターフォーラムのテーマは『コーヒー分野における新技術及び新規投資』としセンサーや移動通信、ビッグデータ、ブロックチェーンのコーヒー生産分野での活用、インパクトローンや環境・社会投資等の専門家8名をスピーカーとして招請することが決められ人選することとなった。

（8）ワークショップ1（サビ病）

司会者はSAGARPAの Vera Espindola 女史が務め、CABI Africaの Dr. Charles Agwaganda 氏が Africa に於けるさび病対策の経験を、FNC Cenicafeの Dr. Carlos Ariel Angel 氏がコロンビアのさび病対策の成功例を、メキシコSAGARPAの Santiago Campos 氏がメキシコの体験談を披露した。

（9）ワークショップ2（コーヒーと健康）

司会者はSAGARPAの Yunyune Martinez 女史が勤め、ASIC(Association for Science and Information on Coffee)代表でISIC(Institute for Scientific Information on Coffee)科学委員会アドバイザーでもある Astrid Nehlig 女史がコーヒーの効用について全般的な説明を行い、全米コーヒー協会（NCA）CEOの Bill Murray 氏が米国カリフォルニア州のアクリルアミド問題及びコーヒーと健康について話した。また、ブラジルのUFS C教授 Rui Daniel Prediger 氏がコーヒーとパーキンソン病、アルツハイマー病、うつ病等の精神的病気とコーヒーの関係について話した。 以上

トピックス（２）

昨年 7 月コロンビアのメデリンで第 1 回世界コーヒー生産者会議が開催されたことは皆様ご存知の通りですが、同会議で決められた通り今回の I C O 理事会と並行して、4 月 8 日及び 12 日に代表団会議が開かれました。同会議は次のようなプレスリリースを発表しましたので邦訳をお届けします。

世界コーヒー生産者会議フォーラム (World Coffee Producers Forum) を組織化することとする。

- ・ コーヒー生産者は現在の極めて安い国際コーヒー価格が引き起こす破滅的事態を憂慮している。
- ・ 世界コーヒー生産者フォーラム (W C P F) はコーヒー産業と一緒にコーヒー農家の社会的、経済的状況を改善する為に問題を特定し、それを解決する為の行動を起こす。
- ・ W C P F は国際コーヒー機関 (I C O) に対して新興市場やコーヒー生産国でコーヒー消費を増やす為に指導力を発揮するよう要請した。

メキシコシティー 2018 年 4 月 12 日

W C P F 理事会は 2018 年 4 月 8 日と 12 日にメキシコシティーで集まり、世界コーヒーバリューチェーンの持続可能性に関するいくつかのトピックス、特に過去 30 年間低迷しているコーヒー価格がコーヒーの経済的持続可能性を危機に晒している問題を分析・議論した。現在のコーヒー価格がコーヒー生産者に与えている破滅的影響に注目が集まった。

トピックスの中で主に話し合われたのはコーヒー生産者の収入を増やす為には他サプライチェーンと一緒に本気で行動を起こす必要があるということであり、それは消費の促進、コーヒー価格の上昇、気候変動問題の解決、コーヒー生産国の生産性の向上などの分野で指導力を発揮するということである。

2017 年 7 月コロンビアの会議で決められた通り、W C P F は Jeffrey Sachs 教授 (国際連合持続可能発展目標 (S D G s) に関する国連事務総長特別アドバイザー、コロンビア大学地球研究所所長) にコーヒー小農家の収入を増やすための経済的・政策的側面の研究を委嘱した。本研究の導入部分はメキシコの I C O 理事会で紹介されたが、2018 年 9 月及び 2019 年 3 月にもその時点での研究成果を発表するが、最終研究発表は 2019 年 7 月に開催される W C P F で行われる予定である。

W C P F 代表団は I C O に対し例えば、生産国や新興国に於ける消費を促進することやコーヒーチェーンの全ての関係者間での話し合いを促進するなどいくつかの分野で

リーダーシップを発揮するよう要請した。

コーヒーバリューチェーンの問題点、特にコーヒー生産者の経済的・社会的状況に関わる問題への認識を高め、解決する為にNPO法人として正式にWC PFを組織化し、コーヒー農家の社会的・経済的状況を改善する為の仕組みを模索することが決められた。

ブラジルのCNC (Conselho Nacional de Café) 代表Silas Brasileiro氏は、『我々にとってはコーヒー生産が持続可能で、利益が伴うものであると同時にコーヒーの世界需要が着実に成長しなければならない。生産者、農協、コーヒー産業及びICOは新興国や生産国の消費を伸ばす為に協力して行動することが不可欠である』と述べた。

AFC A (African Fine Coffee Association) 理事会メンバーの一人Ishak Lukenge氏は『現在のコーヒー価格は何百万人に及ぶアフリカのコーヒー農家にとっても、全世界のコーヒー農家にとっても経済的に持続可能な水準ではない。我々はコーヒーバリューチェーンが持続可能であることに共同責任を持つが、全ての輪が持続可能な状況であることを保証する必要がある。』

SCA (Specialty Coffee Association) 代表のRic Rhinehardt氏は、『今日の消費者はコーヒーの味がよく解っており、高い品質を求めるが、同時にそれらが持続可能な方法で生産されていることも要求する』と述べた。

『最初の輪(link)であるコーヒー農家が、生産活動で利益を確保できないという極端に脆弱な輪であり続けながらコーヒーバリューチェーンを持続可能にすることは不可能である』とコロンビアFNC代表のRoberto Velez氏は語った。

全米コーヒー協会(NCA)代表William Murray氏は『ある調査によると世界は2050年までにコーヒー生産量を倍増しなければならないとのことで、コーヒーバリューチェーンは将来の世界需要を満たす為に生産が持続可能であることを保証する必要がある』と述べた。

ICT (Indian Coffee Trust) 代表のM. B. Bopanna氏は『インドの中間所得層は450百万人いるが、もし彼らに美味しいコーヒーを飲む機会を与えコーヒー飲用のメリットを教えるならインドのコーヒー需要は飛躍的に増えるだろう』と述べた。

『何十年も働いた後で両親が基本的必需品さえ買えない状況にあるとすれば、どうして我々が自分の子供や次代の若者にコーヒー生産を続けるよう説得できるだろうか』

Promecafe 代表の Rene Leon 氏は最後に言った。

第一回世界コーヒー生産者フォーラム(WCPF)は 2017 年 7 月コロンビア、メデリンで 1500 人を超える参加者を得て開催された。第 2 回 WCPF は 2019 年 7 月に開催予定である。

メキシコでは次の国、地域組織の代表が集まった。

African Fine Coffees Association (AFCA), Agence de Cafés Robusta d’Afrique et Madagascar (ACRAM), Inter-African Coffee Organization (IACO), National Agriculture Exports Development (Ruanda), Coffee Industry Corporation (Papua New Guinee), Uganda Coffee Development Authority, Coffee Directorate of Kenya, Commodities Fund of Kenya, Ethiopia, Burundi, Office National du Cacao et du Café (Cameroon), Brazil Specialty Coffee Association (BSCA), Conselho Nacional do Café do Brazil, National Coffee Association (USA), Instituto del Café de Costa Rica (ICAFE), Instituto Hondureño del Café (Ihcafé), Unión de Cooperativas Agropécuarías Ltda. (Honduras), Asociación Nacional de Caficultores de Honduras, Asociación Hondureña de Productores de Café, Fondo Cafetero Nacional de Honduras, El Salvador, India Coffee Trust, SAGARPA (México), Amecafé (México), Sistema Producto Café de México, Federación Nacional de Cafeteros de Colombia and the Specialty Coffee Association (SCA, USA and Europe).